

今、事業者求められるGX・ 脱炭素化とは

株式会社スキルアップNeXt



自己紹介

<https://green-transformation.jp/>

株式会社スキルアップNeXt

代表取締役

田原 真一（たはら しんいち）

略歴

- 2011 年に新卒でITエンジニア・PM
- 2015 年からリクルートにてAI・データ分析
- 2018 年にスキルアップAI株式会社を創業
- 2022 年からGX人材育成事業を開始

活動

- 経済産業省 GXリーグ「GX人材市場創造WG」リーダー
- 日本ディープラーニング協会 人材育成委員
- 産総研 ABCIユーザー 人材育成企画担当



スキルアップ NeXt

脱炭素時代の組織変革と人材育成を
共に進める伴走パートナー

会社名	株式会社 スキルアップNeXt
本社所在地	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2丁目40-5
設立	2018年5月
役員+社員(連結)	95名 (2026年1月時点)
代表者	田原 真一
資本金	1億2,300万円(資本準備金含む)
事業内容	AI / DXを中心としたデジタル人材育成事業 データ分析・AI開発に関わるコンサルティング、システム開発事業 GX (Green Transformation) 人材育成事業 AI / DXを中心としたデジタル人材特化型 採用支援事業 Webサービス開発事業
所属	日本ディープラーニング協会 正会員、データサイエンティスト協会 正会員 産業技術総合研究所 ディープラーニングワーキンググループメンバー 量子技術による新産業創出協議会 / 日本統計学会 一般社団法人 日本経済団体連合会 (略称：経団連) GXリーグ GX人材市場創造WG リーダー

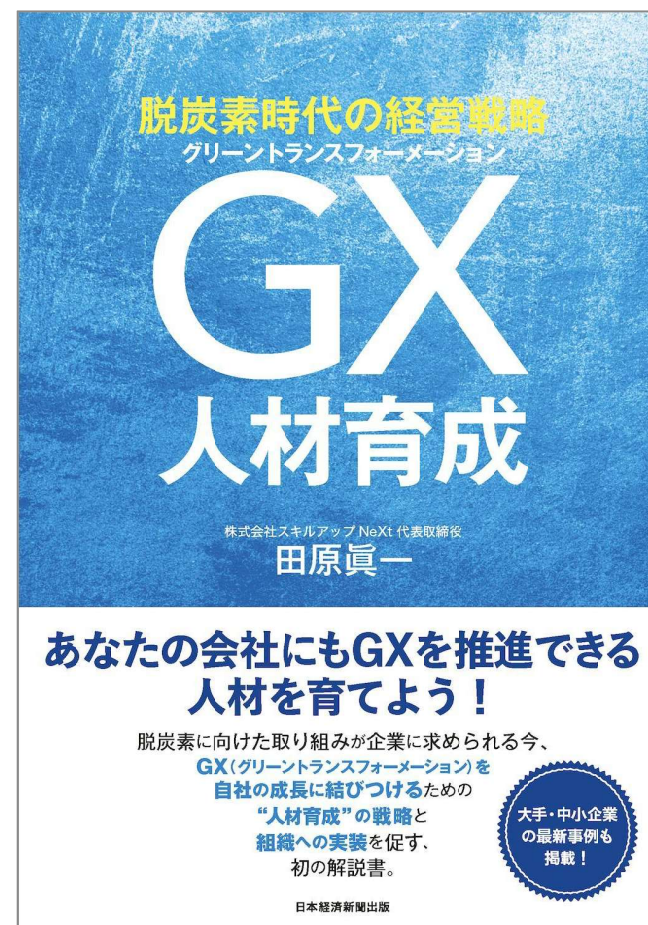


関連書籍

<https://green-transformation.jp/>



2025年12月2日発売



2026年1月16日発売

GX人材育成・組織構築支援の実績

<https://green-transformation.jp/>

GX/サステナビリティ推進組織構築のプロフェッショナルとして**820**以上の
企業・自治体に教育プログラムを提供しています（累計**40,000**名以上）

 **NTT docomo Solutions**

 **NTT docomo Business**

 **NTT docomo**

 **CTC**
Challenging Tomorrow's Changes

 **Q'sfix**
CABO'S energy

 **グリーンコ-op**

 **JAPEX**

 **JNC**
よろこびを化学する

 **飯田市**

 **DUNLOP**
TAKING YOU BEYOND

 **DAIKIN**

 **DAIHATSU**

 **大和証券**
Daiwa Securities

 **Astomos Energy**

 **TOPPAN**

 **TGP power**

 **IKO**
Innovation, Know-how & Originality

 **日本郵政**
HOLDINGS

 **S-POOL**

 **綿半ソリューションズ株式会社**
綿半

 **aim SERVICES**

 **植村技研工業株式会社**
Uemura Engineering Co., Ltd.

 **EARTH SIGNAL**

 **edash**

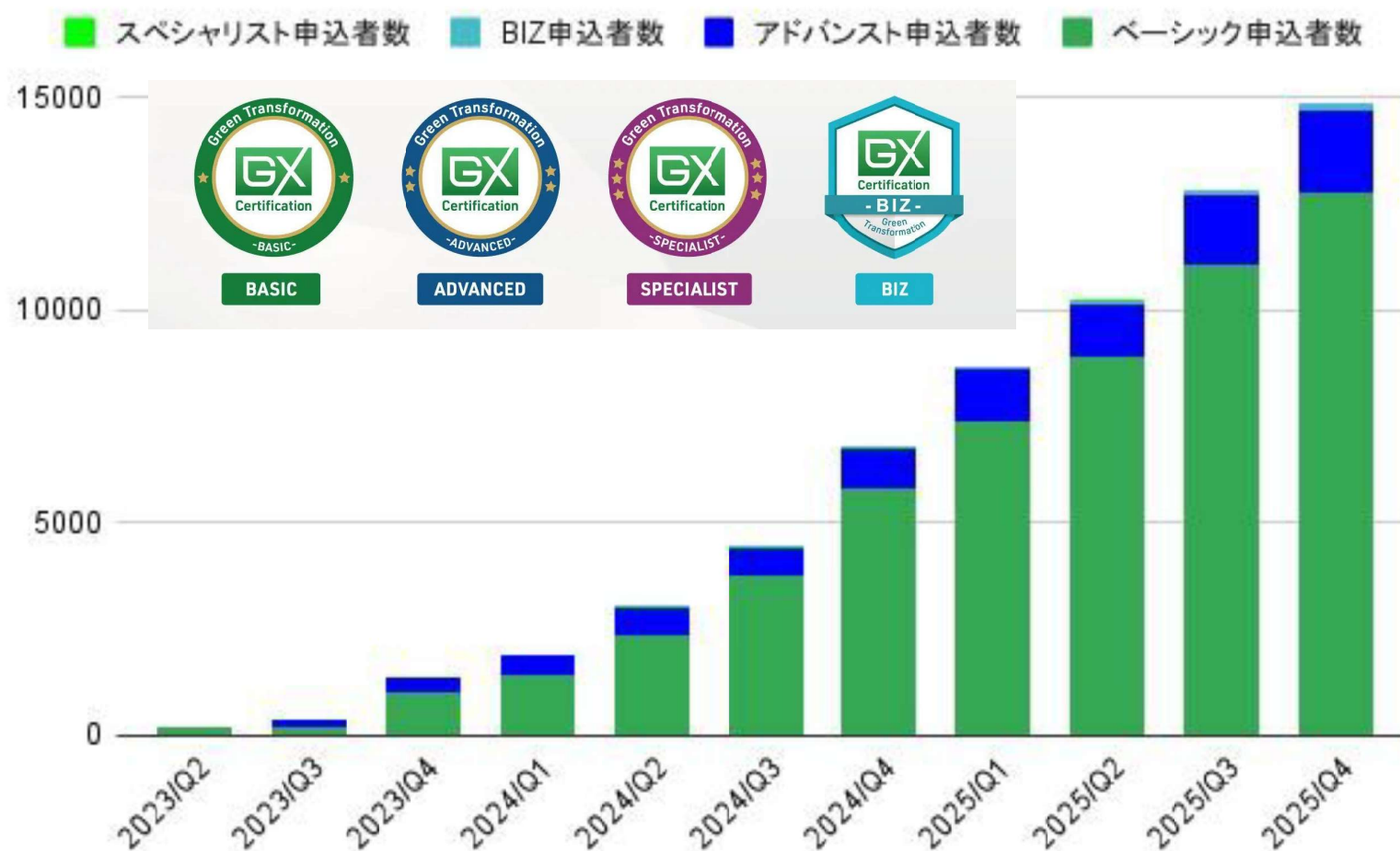
フェーズに応じた様々な人材育成・組織構築支援メニュー

<https://green-transformation.jp/>



日本初の環境省認定を取得したGX検定を主催、受験者数は累計約15,000人

<https://green-transformation.jp/>



経済産業省 GXリーグにおいて、GXスキル標準の策定をリード

<https://green-transformation.jp/>

日本のGX人材のルール形成をリード

経済産業省GXリーグにおいて、GXスキル標準策定を目指したWGのリーダーを務め、育成ルールづくりを推進



記者発表の様子 (24.5)

 GX アナリスト

 GX インベンター

 GX ストラテジ
スト

 GX コミュニケー
ター

GXリテラシー標準を策定

ー 役割やレベルに応じて複数のGXスキルを標準化 ー



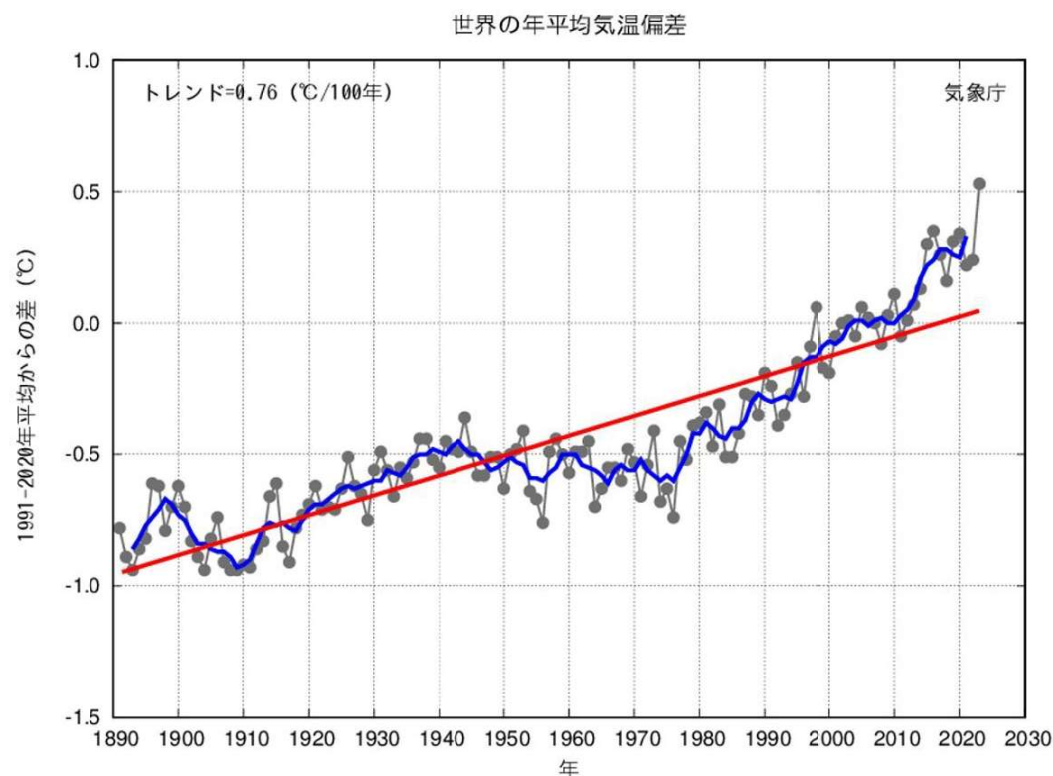
GXスキル標準 (GXSS)

GXリテラシー標準 (GXSS-L)

GX推進スキル標準 (GXSS-P)



- 世界の平均気温は 2020 年時点で、工業化以前(1850 ~ 1900 年)と比べ、既に約 1.1 °C 上昇
- このままの状況が続けば、更なる気温上昇が予測され、様々な問題を引き起こすとされている



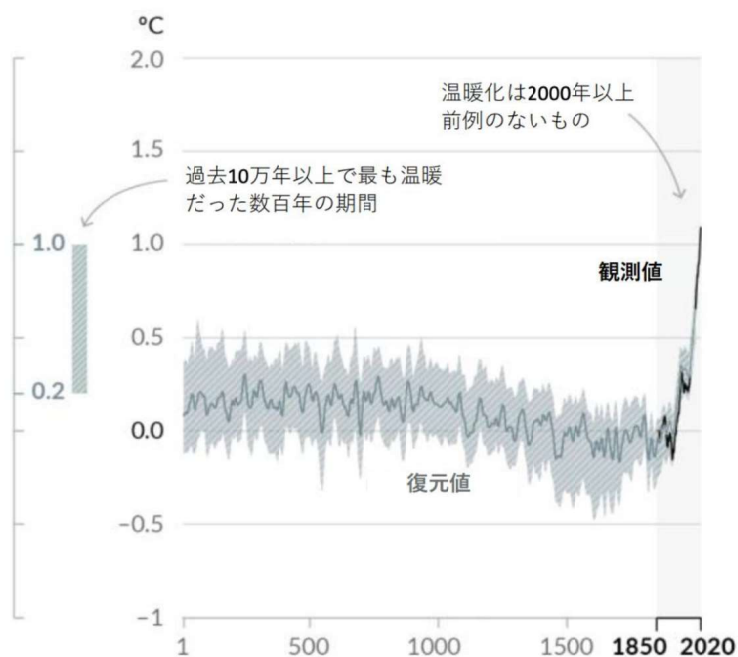
出典：環境省-脱炭素ポータル「[カーボンニュートラルとは](#)」

人間活動による急速な気温上昇

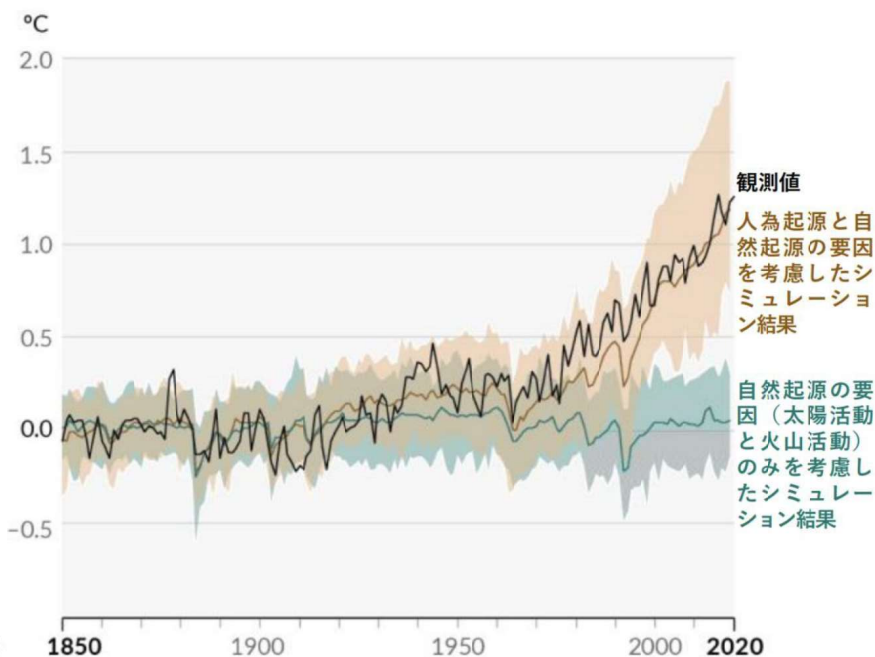
急速な気温上昇の主な原因が人間活動にあることは、科学的なコンセンサスとなっている

1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化

(a) 世界平均気温（10年平均）の変化
復元値（1～2000年）及び観測値（1850～2020年）



(b) 観測あるいは人為起源と自然起源の要因又は自然起源の要因のみを考慮してシミュレーションされた世界平均気温（年平均）の変化（いずれも1850～2020年）



出典：気象庁「[IPCC AR6 WG1 SPM 政策決定者向け要約](#)」

— CN に向けた取組の成否が、企業・国家の競争力に直結する時代に

www.green-transformation.jp

2050 年目標は単なる環境対策にあらず。ポストコロナの巨大成長市場、技術覇権、国際ルール形成を巡る国家間の熾烈な競争の意味合いも大きい

競争のポイント

- 1 巨大市場**
再エネ・EV・水素等、数千兆円規模の新市場創出。
- 2 大規模投資**
官民で数百兆円超の資金流入。経済成長の起爆剤。
- 3 技術覇権**
次世代技術（蓄電池・半導体等）の開発・標準化競争。
- 4 ルール形成**
CBAM（炭素国境調整）等、自国有利な国際ルール主導権争い。
- 5 経済安保**
重要鉱物確保、エネルギー自給、サプライチェーン強靱化。



エネルギー安全保障の重要性の高まり

www.green-transformation.jp

世界のエネルギー供給は地域的に偏在し、多くの国々が輸入に大きく依存

【輸入依存のリスク】

- 産出国の政情不安・紛争
- 外交関係の悪化
- 輸送ルート of 危険

【ウクライナ危機が示す現実】

- エネルギーを他国に頼る危うさが浮き彫りに

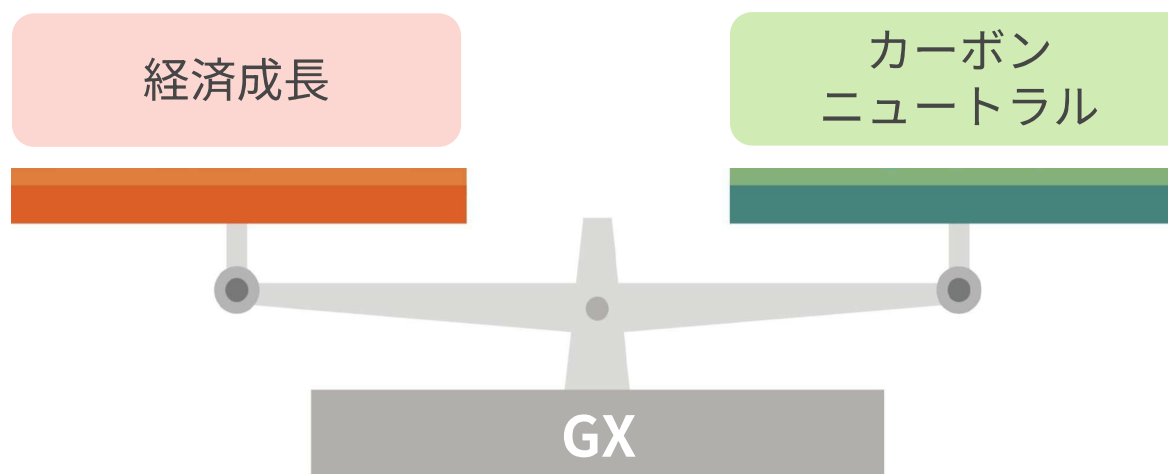
【再エネは切り札】

- 国内で生産可能
- 枯渇の心配なし



GX とは

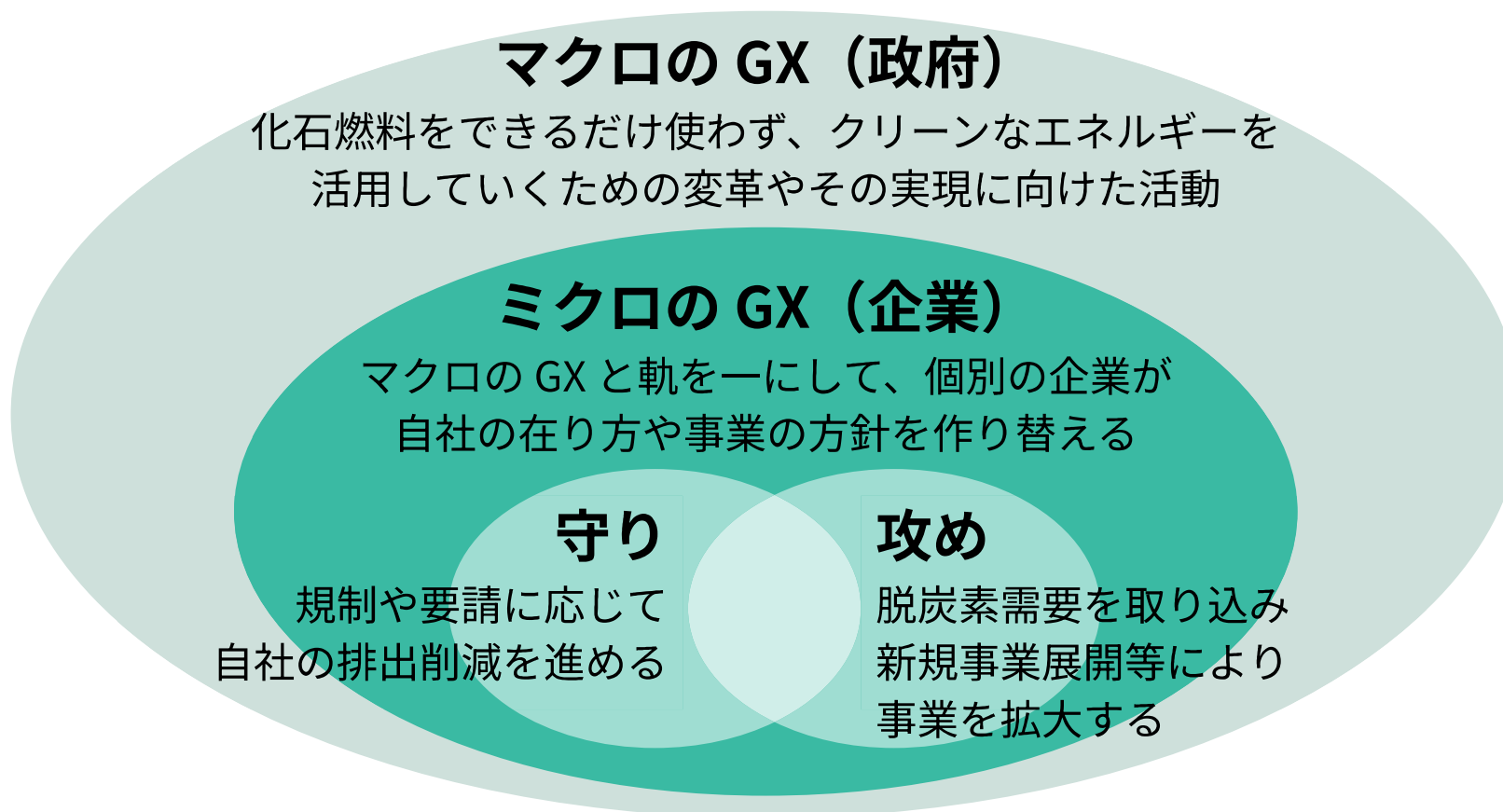
- GX とは Green Transformation (グリーントランスフォーメーション) の略
- カーボンニュートラル と経済成長の両立を目指している



【GX の定義】

カーボンニュートラル と経済成長の両立を目指している 2050 年カーボンニュートラルや、2030 年の国としての温室効果ガス削減目標の達成に向けた取り組みを**経済の成長の機会と捉え**、排出削減と産業競争力の向上の実現に向けた、**経済社会システム全体の変革**

参考：経済産業省「GX リーグ基本構想」等



出典：経済産業省GXリーグ「[GX スキル標準（検討概要と活用方法）](#)」

脱炭素経営に向けた3つのステップ

www.green-transformation.jp

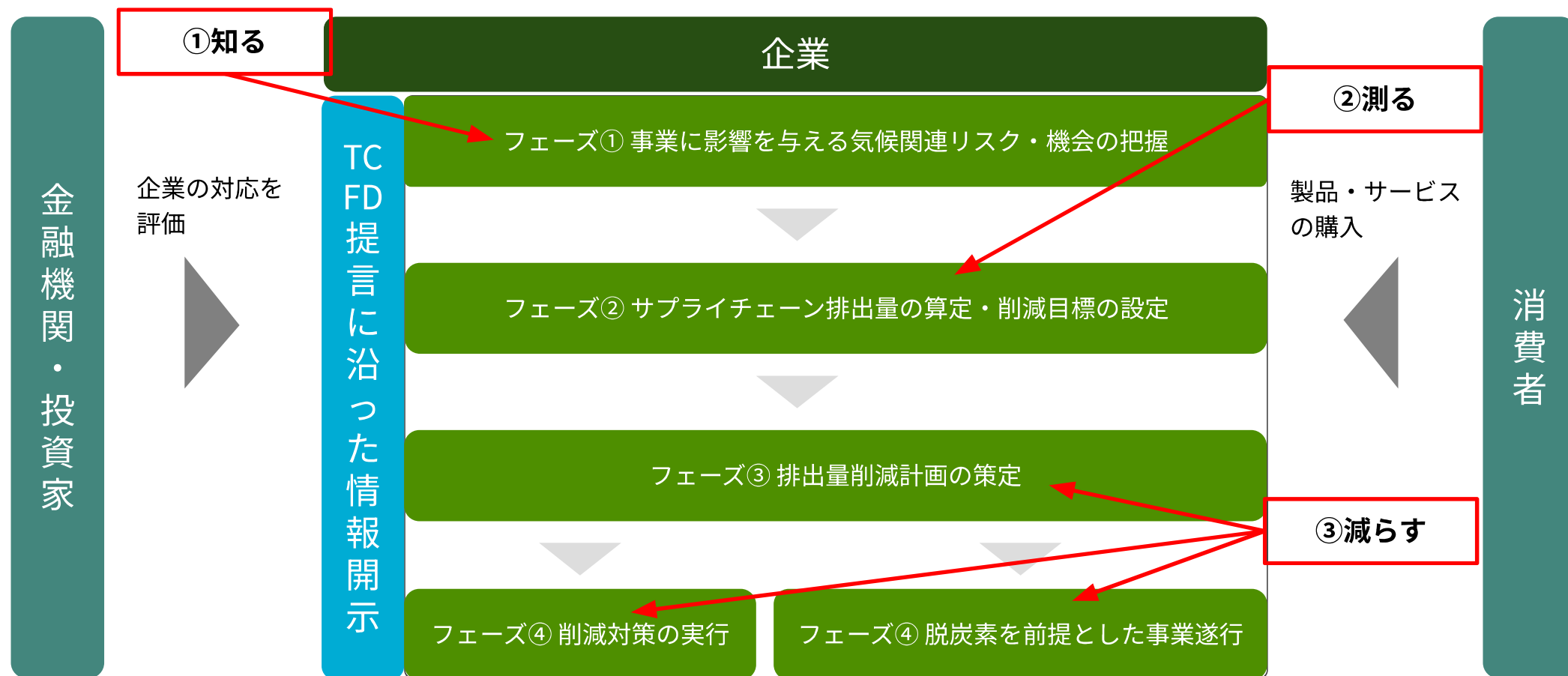


本日の講演

参考：環境省「[中小規模事業者向けの脱炭素経営導入ハンドブック](#)」

脱炭素経営の3つのステップの詳細

www.green-transformation.jp



参考：環境省「[脱炭素経営の手順とは？](#)」

サプライチェーン排出量

- 原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体(サプライチェーン)から発生する GHG 排出量のこと
- サプライチェーン排出量 = Scope1 排出量 + Scope2 排出量 + Scope3 排出量



Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

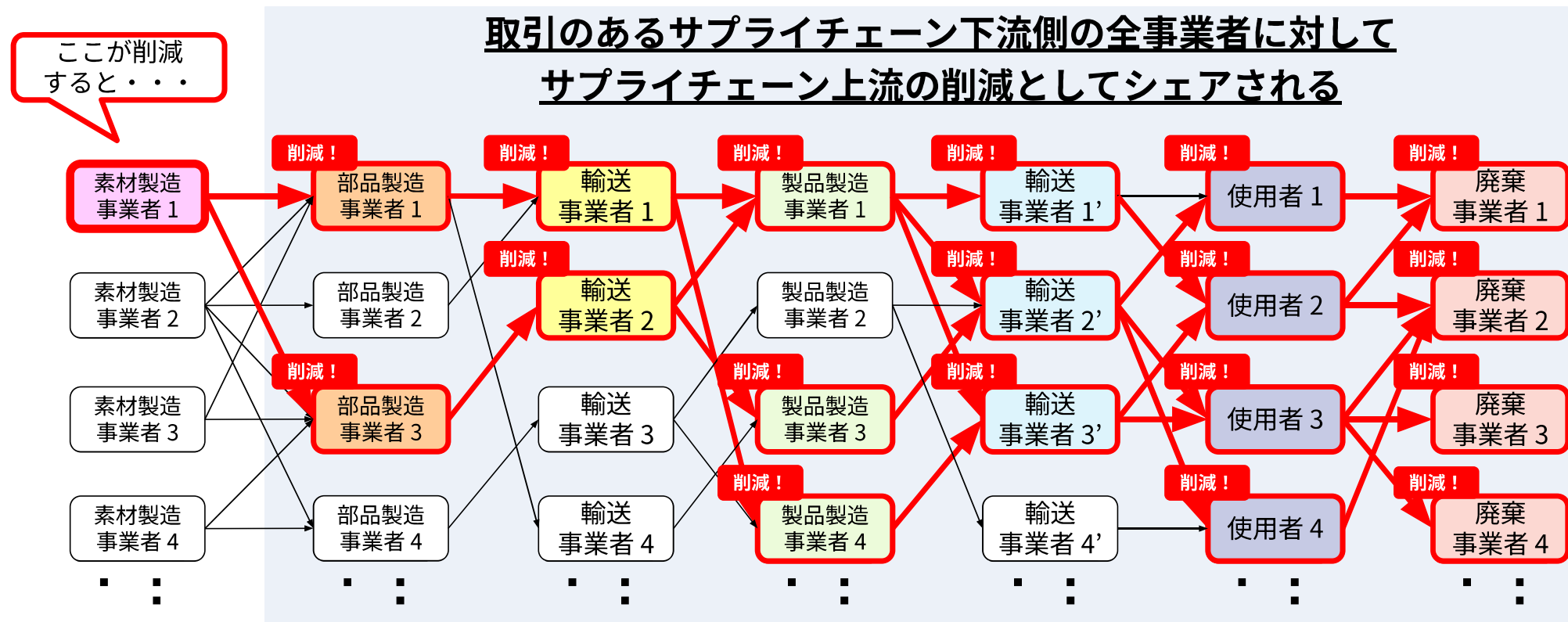
Scope3: Scope1、Scope2 以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

出典：環境省「[サプライチェーン排出量全般](#)」

シェアされる排出量削減

サプライチェーン上のうち 1 社が排出量削減すれば、他のサプライチェーン上の各事業者にとって、自社のサプライチェーン排出量が削減されたことになる

素材製造事業者 1 が、排出量を削減したときのイメージ例



出典：環境省「[サプライチェーン排出量全般](#)」

事例: 中小企業の取り組み(大川印刷)

www.green-transformation.jp

概要

- 「ソーシャルプリンティングカンパニー」というパーパス（存在意義）を掲げて環境に配慮した「環境印刷」を特徴とする

取り組み

- 環境や人体に有害な VOC（揮発性有機化合物）を含まない、ノンVOCインキの導入
- 印刷事業により排出される年間の CO2 の全量をオフセットする「ゼロカーボンプリント」を開始
- 再生可能エネルギー 100 % の工場を実現
- 違法伐採による紙でないことを証明する FSC 森林認証紙を使用



※2026年1月20日時点の大川印刷のHP

3年間で175件の新規顧客を獲得し、売上高も3年間で新規売上はおよそ5,000万円増加

出典：中小企業庁「[新たな価値を生み出す中小企業](#)」

制度概要

- 2026 年度から開始される排出量取引制度
- CO2 排出量の削減を経済的に促進
- 段階的な導入により企業の準備期間を確保

対象企業

- 年間 CO2 直接排出量が10 万 t 以上の法人
- 対象企業数:300 ～ 400 社程度
- 日本の GHG 排出量の約 60% をカバー

出典：内閣官房「[GX 実現に資する排出量取引制度の検討の方向性](#)」

GX 推進機構

10 年間で 150 兆円超の GX 投資を実現するため、債務保証等の金融支援、化石燃料賦課金等の徴収、**排出量取引制度の運営**

今、事業者求められる GX とは

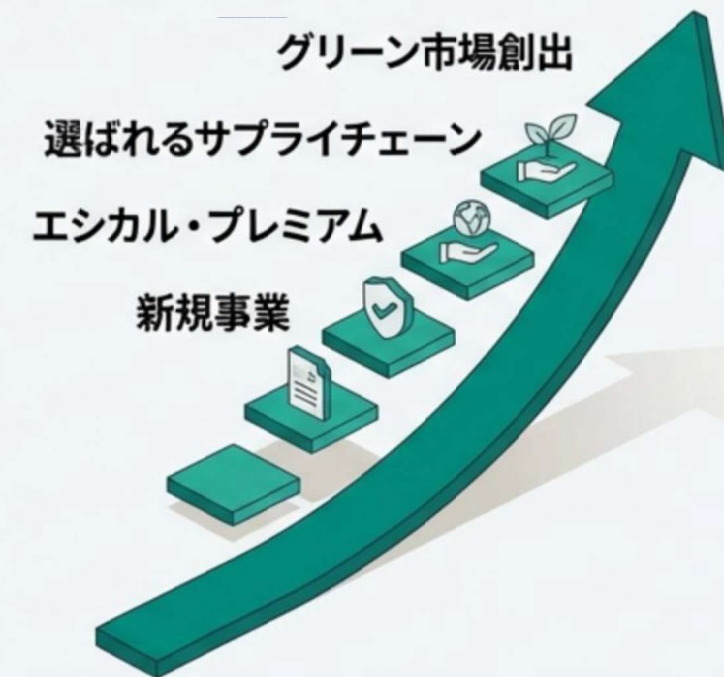
www.green-transformation.jp

守りの GX



業務量が幾何級数的に増大し、現場は疲弊

攻めの GX



多くの企業がここへ転じきれていない

今、事業者求められるのは、増大する「義務」を効率化し、その成果を「価値」へ転換する力。

GX価値の正体:「削減実績」と「貢献量」の経済価値化

サプライチェーン全体で評価される2つの指標

製品GX価値

削減実績量



自社の製造プロセスにおける排出削減
(Scope 1, 2の努力)。

カーボンプライシング時代のコスト競争力

削減貢献量



自社製品・サービスが社会や顧客の排出を
どれだけ減らしたか (Scope 3への貢献)。

顧客 (川下企業) にとっての購入インセンティブ



市場メカニズム: 「ニワトリとタマゴ」の関係を打破
するのは、この「GX価値」の可視化である。

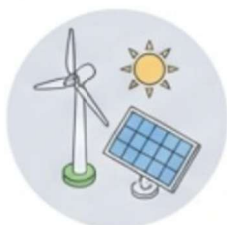
アクション: 削減努力を「環境価値」として切り
出し、価格転嫁またはクレジット化することで
収益につなげる。

成功の鍵は技術ではなく人

技術中心アプローチの限界



省エネ設備



再エネ購入



可視化システム

- × 運用ノウハウ不足
- × 人材スキル欠如
- × 組織連携の欠如

表面的・一時的な成果
(持続的変革に至らず)

技術と人材の
統合的アプローチ

人材育成中心アプローチ



- ✓ 全階層の人材開発
- ✓ 行動変容の促進
- ✓ 組織横断の協働
- ✓ 日常業務への統合

GXが企業文化に定着・持続的変革

課題：多くの企業が設備導入（ハード）に先行し、運用する「人」（ソフト）の育成が追いついていない。
解決策：経営層・推進層・全社員がそれぞれの役割（リテラシー）を理解し、自律的に動く組織への転換。

GX人材育成が企業価値を高めるメカニズム

www.green-transformation.jp

